

合同教育研究会議（10月12日開催）議事概要

1 開催日時

令和4年10月12日 13時00分～13時55分

2 場所

本部棟3階 特別会議室

3 出席者

鈴木学長、石堂副学長兼高等教育推進センター長、
狩野副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、
猪股教育支援本部長、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、
工藤看護学科長（福島看護学部長代理）、高橋社会福祉学部長、
亀田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、
川崎盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、
菅原委員（学外委員：岩手大学名誉教授）、
長谷川委員（学外委員：製品評価技術基盤機構理事長※Web参加）

[事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、
藤村研究・地域連携室長、北島企画室長、瀧澤宮古事務局長、
八木主幹、伊藤主任主査

4 会議の概要

議事録確認

前回会議9月14日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

審議事項

なし

協議事項

（仮称）防災復興支援センターの設置について

狩野研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。予算（案）は現段階の概算であること、取組内容も案段階であり、要望があれば組み込んで幅広く対応していきたいと考えていること、設立準備会議の構成員に高等教育推進センターが入っていないが、全学で対応していくために今後は入ってもらい、外国人への対応なども検討していきたいこと、（仮称）防災復興支援センターは短期的なプロジェクトではなく継続的な組織とする想定であることから、さまざまな意見をいただきながら幅広く検討を進めていく旨の補足説明があった。

学長から、県や地域と一体となって進めていくよう発言があった。

委員から、教職員だけでなく学生を巻き込み、学生の自主的な取組の支援も行ってほしいとの発言があった。学長から、LINKtopos（災害支援や防災、地域活動などに取り組む公立大学の学生による「公立大学学生ネットワーク」、それらの学生が集う「全国公立大学学生大会」）に本学の学生が参加しており、公立大学学長会

議で LINKtopos の活動報告を行うなどしていることから、そういった学生を巻き込んでいきたいとの発言があった。

協議の結果、原案のとおり了承された。

報告事項（口頭報告）

（１） オハイオ大学、中部大学及び本庄国際奨学財団との復興防災学習プログラムの実施報告について

石堂高等教育推進センター長から、資料に基づき説明があった。3年ぶりの開催であったが概ね従来の形式で実施することができたこと、過去10年間の活動により災害公営住宅とのつながりができているので今後も飲料水の配付は続けたいこと、今後は東日本大震災の記憶が少ない学生も増えてくるので、ボランティアとしての位置付けだけではなく防災学習も含めたサービス・ラーニングとして実施を継続したい旨、補足説明があった。

（２） 令和４年度岩手県立大学大学祭（鷺風祭 2022）の開催について

三上学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、事前申込みをしていない者が来場した場合の対応について質問があり、高田学生支援室長から、新型コロナウイルス感染症のクラスター発生などに備えて、氏名や連絡先を記入し受付に提出してもらおう対応をとるとの回答があった。

（３） 令和４年度岩手県立大学の就職内定状況（９月末現在）について

三上学生支援本部長から、資料に基づき説明があった。今年度の内定率が前年度より低くなっているが、令和２年度・３年度の内定率が特に高かったものであり、令和元年度以前と比較すると同程度であること、10月14日（金）に就職支援連絡調整会議があることから、内定状況の把握について各学部の就職関係の委員会に協力を依頼する予定である旨、補足説明があった。

（４） 第四期中期計画及び令和５年度計画の策定に係る学長による学部等ヒアリングの実施について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。第三期中期目標期間の部局の取組を振り返り、来年度以降いかに良い方向に活動していくかということを意見交換していきたいこと、ヒアリングのために別紙様式を作成して提出してもらおうこととしているが、全て確実に書かなければいけないということではなく、各部局の取組を上手く表現するように使用してもらえればよいこと、企画室からヒアリングの日程調整のメールを10月17日（月）を回答期限として送っているため、回答をお願いする旨、補足説明があった。

別紙様式について、計画策定や実績報告と同じようなしっかりとした文章で、定量的なデータを含めて記載しなければならないのかという委員からの質問に対し、橋本企画本部長から、計画策定や実績報告のようなしっかりとした文章で記載する必要はなく、第四期中期計画の策定に加え、これから令和５年度計画の策定作業にも入っていくことから、それらを見据えて今後の展望について意見交換できるような内容となっていればよいとの回答があった。学長から、別紙様式は細かく記載するよりも箇条書き程度とし、ヒアリングの場で質問などしながら意見交換を深められるようにしたいとの発言があった。

(5) 令和4年度「就職先企業アンケート」の実施について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。経年変化を捉えるために質問項目は概ね前回と同じ内容としていること、アンケート結果は中期計画の策定にも活用したいと考えている旨、補足説明があった。

(6) 開学25周年記念・多言語動画制作への協力依頼について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。

委員から、本学の魅力を学外へ発信する内容であることに加え、学内の学生や教職員が動画制作に参加することにより、大学に誇りを持てるような内容になるとよいとの発言があった。

報告事項（資料報告）

- (1) 「プログラミング教室2022 in 宮古広域圏」の実施結果について（報告）
- (2) 令和4年度全学FD・SDプログラム第1回高等教育セミナー開催結果について
- (3) 総合型選抜（第1次選考）選抜結果について
- (4) 編入学試験入学手続結果について
- (5) 大学院入試（看護学研究科・社会福祉学研究科・総合政策研究科、第1次募集）選抜結果について
- (6) いわてスマート農業推進シンポジウム内展示会出展結果について（報告）
- (7) 「令和4年度第5回職員衛生委員会」の結果について
- (8) 「令和4年度第6回職員衛生委員会」の結果について

学長から、(1)に関連して、公立大学協会北海道・東北地区協議会においてデータサイエンスの話題が取り上げられ、データサイエンス教育を一般社会へ普及する取組が本学に期待されていること、リカレント教育などで取組が進められればよい旨の発言があった。

その他

教員業績評価に関するアンケート回答期限の延長について

橋本企画本部長から、10月5日（水）を期限に実施していた教員業績評価アンケートの回答数が低調であることから、10月31日（月）まで回答期限を延長することとしたこと、教員業績評価は現行の制度になってから10年以上が経過し見直しの検討をする時期となっており、当該アンケート結果などを踏まえて検討することから、各所属の教員に対し教授会などで当該アンケートの周知に協力をお願いする旨、説明があった。